



海峡を渡る潮風を感じて

下関散策

KANMON
WALK
SHIMONOSEKI

下関は本州最西端に位置し、周防灘、響灘、関門海峡と三方を海に抱かれた海峡と歴史のまちです。高杉晋作が明治維新の旗揚げを行った功山寺や日清講和条約（下関条約）の締結地である春帆楼など歴史上重要な史跡が数多く残されています。また、かつては大陸交通の玄関口として「日本の玄関」と呼ばれていましたが、現在も国際航路として、韓国・釜山や中国・青島への直行船が出航しています。

エリア

A 自然が彩る歴史潮流

唐戸棧橋から城下町長府へと続くエリアでは、関門海峡地区では一番高い(標高268m)場所にある瀬戸内海国立公園火の山からの素晴らしい眺望が楽しめます。海峡側のふもとには長州砲のレプリカや壇之浦古戦場跡の碑、源義経像・平知盛像が建つみもすそ川公園があります。公園前の海は関門海峡の一番狭まった早瀬(はやとも)の瀬戸といわれるところで、代表的な関門海峡の景色を見ることができます。公園のすぐ側には関門トンネルの人道口があり、約15分で門司港・和布刈へ歩いて渡ることができます。



火の山公園



みもすそ川公園

対岸の九州まで780m程度、関門海峡の一番狭まったところで早瀬(はやとも)の瀬戸と言われる場所に位置します。潮流の速さは日本有数で、「日本の音風景100選」に選ばれた関門海峡の潮騒と汽笛や、美しい門司の夜景を楽しむことができます。源平壇之浦合戦の古戦場であるとともに、幕末の攘夷戦で外国船に砲撃した砲台跡でもあります。



関門トンネル人道

下関側の入口はみもすそ川公園の正面にあります。門司側までの距離は780m、徒歩15分で結びます。自転車でもどうぞ。通行無料(自転車・原付20円)



満珠・干珠(まんじゆ・かんじゆ)(天然記念物)

神功皇后が龍神から授け受けた満る珠、干る珠から生まれたと伝わる伝説の島です。2つの島が寄り添うように見える豊功(とよこと)神社や御船手(おふなて)海岸付近からの景色がおすすです。



エリア

B 下関シーサイド散策

JR下関駅から唐戸地区一帯は、関門海峡沿いのロケーションを楽しむと同時に、源平壇之浦合戦ゆかりの赤間神社や日清講和記念館、童謡詩人金子みすゞ顕彰碑、「放浪記」の林芙美子(ふみこ)生誕碑などの名所・旧跡巡りも楽しめる魅力いっぱいのエリアです。「唐戸」の地名は、「唐(中国)をはじめとする諸外国への「戸」(玄関口)に由来し、この地が古くから国際都市として栄えてきたことをあらわしていますが、今、また「しものせき水族館『海響館』」、「唐戸市場」、「カモンワーフ」など新たな観光スポットが次々と誕生し、にぎわいの空間として変貌を遂げつつあります。



カモンワーフ

「食べて」「遊んで」「海を感じる」をテーマに、新鮮な海の幸をお楽しみいただけるレストラン・お食事処やファーストフード、お土産店などを備えた人気のスポットです。3Fスカイガーデンからの関門海峡の眺めもおおすすめです。



赤間神社



しものせき水族館「海響館」

エリア

C 城下町の面影・長府



長府は長門(ながと)の国の国府があったことから長府とよばれるようになりました。江戸時代には長府毛利藩5万石の城下町として栄え、幕末には高杉晋作が維新回天の挙兵を興すなど、歴史の重みを感じさせる町並みが続いています。国宝仏殿の功山寺をはじめ、長府庭園や長府毛利邸、寛苑寺、乃木神社など由緒ある神社仏閣と、毛利家の栄華を今に伝える旧跡の数々、歴史情緒あふれる練堀の続く古江小路や横枕小路など、城下町の面影が今も色濃く残っており、往時を偲びながら、ゆっくり散策するのにぴったりのコースです。



功山寺(こうざんじ)

二重檼造りの山門や、わが国最古の禅寺様式を残した仏殿(国宝)が、嘉暦2年(1327年)創建の由緒を語ります。桜と紅葉の名所、高杉晋作が挙兵した寺としても知られ、境内には馬上姿の晋作の銅像も置かれています。